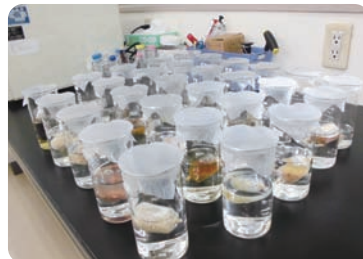


商品安全 検査センターから

生協の年末迎春検査 年末年始も生協商品で！

早いもので、今年も残り少なくなってきました。商品検査センターでは、毎年この時期、年末迎春商品の検査を実施しています。今回は、年末年始の特別な商品に対して、どのように検査をし、チェックしているのかを紹介します。



年末迎春商品の品質管理

年末年始はクリスマスや年越し、お正月などおめでたい行事が続く、オードブルやかまぼこ、数の子など、日ごろ商品案内や店頭で見られない商品がたくさん登場します。

このような時期は、食品工場や店内加工において、通常と違う種類の商品を作る場面が増えたり、注文数が多くなったり、普段通りでない状況に置かれます。そのため、品質管理によりいっそう気を配り、工場点検や商品仕様書のチェックに加え、これら年末迎春商品の検査にも、特に力を注いでいます。

事前検査

年末特有の商品は、扱い期間が限られており、通常では検査しきれないことが多くあります。そのため、新規取扱いの商品や毎年多く利用いただいている商品を中心に、可能なものは事前に検査をしています。必要性が高いものは企画前にも検査を行い、適切な商品であることを確認しています。

今年も年末迎春商品を、共同購入や店舗いずれの商品も、点検や検査でしっかりと品質を管理していきます。安心してご利用いただき、良い年をお迎え下さい。

商品お届け時の検査

商品案内に、掲載されている年末迎春商品を、検査センター各担当が、専門の視点で商品を選び注文します。組合員の皆さんにお届けするのと同じ状態で商品を入し、検査を実施しています。

店舗商品の検査

クリスマスや年末の時期には、検査センターの職員が、生協のお店に直接出向き、店頭にある年末迎春商品を購入して検査を行っています。お店には、商品案内では企画されない商品や、店内で加工される商品などがあります。それらの商品の表示に誤りがないか点検したり、安全性を確認するための検査を実施しています。



2014年度 第5回理事会だより | 10/8 |

① 9月期決算について承認しました

9月期事業結果 単位: 百万円

	9月実績	予算差	累計実績	予算差
商品の供給高	2,088	44	12,448	384
総事業高	2,160	44	12,845	375
事業経費	462	-23	2,835	-76
経常剰余金	34	38	106	197

組合員数 223,494名 計画比99.7% (加入744名)
出資金 39億1,458万円 一人当たり出資金17,515円

② 2014年度上半期活動のまとめと下半期すすめる重点について確認されました。

③ 2015年ニューヨークの国連本部で開催されるNPT(核不拡散条約)再検討会議に1~2名の代表を派遣すること、また代表派遣のためのカンパを呼びかけることが確認されました。

④ 「生協でしか利用できない。きれいたら困る」といった商品を中心に毎週利用できるしくみ「いつでも注文カタログ(仮称)」を11月より開始することが確認されました。

⑤ 2014年11月からの『新旧総代交流会』の開催について確認されました。

⑥ 10月7日本県市と「災害時における応急生活物資供給に関する協定書」を締結したことが確認されました。



第12回

3・11を忘れない みやぎ生協から 被災地・宮城のいまをお伝えします

コープぎふは、
東日本大震災の復興対策に
継続して取り組んでいきます



今も震災前の水準から遠く

「復興なんて、まだまだ先」「売上げが震災前の5割程度という企業も、まだいっぱいあるよ」。宮城の水産加工業者の多くは、震災によるダメージからいまだ十分に回復できていません。水産庁の調査(*)によると、宮城県で生産能力が被災前の水準に戻った事業者は13%、売り上げではたった8%しかありませんでした。

復興をはばむ主な要因は、販路喪失、風評被害、人手不足です。震災で宮城の水産加工品の生産は一時ストップしました。代わりにスーパーの棚を埋めたのは他産地の商品で、生産が再開されてもそれは変わりませんでした。さらに放射能の風評問題が、水産加工業を直撃しました。



志田金の塩蔵わかめ生産工程



2014年6月に新工場が完成した
三波食品

塩蔵わかめなどを製造する株式会社志田金は、関東以南のスーパーとの取引が震災後、大幅に減少しました。いち早く工場を再開したにも関わらず風評で売れない状況が続く、その間に従来の取引先で

漬け魚などを製造する三波食品株式会社専務取締役・松本晴幸さんも「関東では売り上げが伸びているが、西日本は風評のせいで、そもそも店に置いてもらえない」と話します。

人手不足も深刻です。「募集をかけても人が集まらない。高卒者もパートも、みんな給与の高い建設土木などの仕事に流れていく。中国やベトナムなどの労働力に頼らざるを得ない」と、松本さんは思うようにいかない現実を口にします。

は、他産地のわかめへの切り替えが定着してしまっただけです。代表取締役の志田金治郎さんは「風評被害がなければ、宮城の水産加工業はもっと早く売り上げを回復できていたはず」と言います。

販路や風評、人手不足の問題が解決されなければ復興とは言えない、そんな思いが「復興はまだ先」の言葉には込められているのです。

*「水産加工業者における東日本大震災からの復興状況アンケート調査」(2014年4月16日 水産庁)

11月7日、コープの森づくり「浜の母さんの料理教室」を開催しました



食事をしながら産地の方の話がきけて、よい交流会でした。

ほたての厚みと甘みに感動しました！



本物の味に触れて驚きと感激で、家族にもぜひ食べさせたいと思いました。

自分たちが食べるもので、自然を豊かにする手伝いができるなんて素敵なことだなと思いました。



このマークの商品をご利用いただくと
1円がコープの森づくりに役立てられます。

生協で扱う鮭、いくら、ホタテなどの産地、北海道野付漁協では「海と川と森はひとつ」を合言葉に、植樹活動を行っています。コープぎふも2008年から毎年、組合員さんの代表が植樹活動に参加しています。今回は、北海道野付漁協さん、北海道ぎよれんさんを恵那市文化センターにお招きし、野付の漁業や植樹活動について学んだら、浜のお母さん方から料理を教えてもらいました。